

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年 3月 10日

札幌市立宮の森中学校

1 本年度の重点目標

学校教育目標の具現化に迫る教育課程の編成と実施及び全員参画による意欲と活力に満ちた学校経営の推進を基盤に、学習指導、生徒指導、生徒活動、進路指導、家庭・地域等との連携、会計・事務の6項目において重点目標を設定した。

2 本年度の経営方針

- ・生徒一人一人の個性や人格を尊重し、豊かな心情を育むとともに、集団とのかかわりの中で自立と共生という自己の生き方を主体的に考えていく教育の推進。
- ・確かな知性（知）・豊かな人間性（徳）・逞しい体（体）のバランスのとれた全人格的な教育の推進。
- ・教職員相互の信頼と協力の中で、組織的で連携を十分に図った指導・支援体制の充実。
- ・教職員の実践的な指導力向上を目指した研修を大切にするとともに、豊かな心情を育むことを根幹とした教育活動の充実と深化。
- ・地域・社会に開かれた学校として、学校・家庭・地域の相互理解を深め、信頼と協力に基づいた教育活動の推進。
- ・生徒・教職員が協働し、組織的な連携、細やかな見取りを基盤に安全・安心で潤いのある生活環境づくりと魅力ある学校生活の創造。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育活動全般	教育目標や経営方針・重点の内容を踏まえた教育活動を行っているか。	A	生徒の多くは、学校生活を楽しんでおり、行事にも進んで参加している。今後も生徒が通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校を目指し、学校経営を進めていく。	A	A
	本校のホームページや学校だよりは学校の様子や情報を適切に伝えているか。	A	今年度、ホームページの全面改訂を行い、作業の効率化を図った。内容の充実に努め、これからも地域・社会に開かれた学校を目指していく。	A	A
	保護者・地域等に開かれた学校になっているか。	A	行事などの運営では、保護者・地域との連携を図りながら進めることができた。これからも多くの方々の理解と協力を得られるように努める。	A	A
	重点である校区内の小学校や地域、家庭と連携しての、主体性の育成に取り組んでいるか。	A	地域に信頼される学校、心の故郷たる学校を目指して小中連携し、地域の子ども達に共通する課題である、主体性の育成に次年度も取り組んでいく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	教育活動の様子を、学校だよりやPTA集会等よく伝えている。また、学校行事には保護者・地域の方の参加が多く、学校への関心の高さがうかがえる。これからも、子どもたちが落ち着いた生活を送れるよう、和やかな生徒と教職員の関係を築いてほしい。				

(様式2)

教科指導	生徒にとってわかりやすい授業づくりを進めているか。	A	「学ぶ力」育成プログラムを基に、ユニット活動等の協同的な学びを活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、「分かる」「できる」「楽しい」授業を目指し今後も実践を積み上げていく。	A	A
	評価・評定について生徒や保護者に十分に説明がなされているか。	B	保護者へ評価評定の更なる理解が得られるように説明の機会を設定し、また、生徒自身の主体的な目標設定と継続的な努力につながるような学習評価を行うように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		本校のユニット学習を継続し、子どもが自ら学ぼうとする姿勢を大切にしていってほしい。自己評価にあるように、授業の中で、さらに評価や評定について、繰り返しながら子どもたちに説明を続けてほしい。			
道徳・特活・総合	学校は道徳の指導に力を入れ豊かな人間性を育てているか。	A	道徳教科の指導に関しては、他校に先駆けて研修に取り組んでいる。道徳教育に生かしながら「豊かな心」を育むよう、更に研鑽に励む。	A	A
	学級活動や委員会活動など生徒による自治的な活動が活発に行われているか。	A	生徒会や委員会、学年において「あいさつ運動」などの活動に多くの生徒が取り組んでいる。いじめの防止や命を大切にする指導・支援についてもより活発に取り組めるように努める。	A	A
	総合的な学習の時間の学習内容や構成は適切であるか	A	キャリア教育を核として、生徒には様々な経験の中から自分の将来について考える機会を提供している。次年度も更に充実した活動ができるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		現在の計画や指導内容を継続して行ってほしい。			
生活指導	生徒に基本的な生活習慣や規範意識が身に付くよう指導しているか。	B	保護者、生徒、教師アンケートともに、数値が下降している。次年度は地域や家庭との連携の中で、基本的な生活習慣の定着や規範意識を高め、集団生活の向上を目指す指導・支援を積極的に進める。	A	A
	学校では生徒の悩みや相談に適切に対応しているか。	A	年間10日の教育相談、スクールカウンセラー・相談支援パートナーとの連携で、相談活動の充実を深めている。生徒一人一人の理解を更に深め、より適切な対応が図れるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		アンケートの数値では若干の低下が見られたが、学校の活動全般で基本的な生活習慣の定着を図り、生活意識を高めて行ってほしい。SNSの利用に関しては、学校と家庭が連携して、好ましい使い方を根気強く指導してほしい。			
教育環境	校舎内の清掃や整頓がよくされており、安全管理も適切に行われている。	A	校舎や設備も30年を超え、不十分な点も出てきているが、劣化や破損などについても適時整備し、安全・安心で潤いのある学校生活が維持できるように努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		現在の通り、教職員が施設の維持管理に心掛けて行ってほしい。			

(様式2)